

事例番号:270083

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第六部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 40 週 6 日 予定日超過のため入院

4) 分娩経過

妊娠 41 週 0 日

9:40 オキシトシン注射液による分娩誘発開始

15:40 陣痛開始

17:10 オキシトシン注射液による陣痛促進終了

胎児心拍数陣痛図は、変動一過性徐脈散見、オキシトシン注射液中止後から翌日の陣痛促進再開までにも頻回な変動一過性徐脈、徐脈後の頻脈が出現、ノリアシュアリングパターン

妊娠 41 週 1 日

胎児心拍数陣痛図は、変動一過性徐脈と遷延一過性徐脈あるいは一定しない基線が反復、ノリアシュアリングパターン

9:05 オキシトシン注射液による陣痛促進開始

11:40 破水、羊水混濁なし、子宮口全開大

12:31 児娩出、頭位

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:41 週 1 日

- (2) 出生時体重:2720g
- (3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.34、PCO₂ 41mmHg、PO₂ 19mmHg、HCO₃⁻ 22mmol/L、
BE -3.5mmol/L
- (4) Apgarスコア:生後1分9点、生後5分9点
- (5) 新生児蘇生:実施せず
- (6) 診断等:生後6日 退院
退院後 哺乳不良、経鼻胃管挿入による栄養管理
生後4ヶ月 定頸なし、発語なし、精神発達障害あり
- (7) 頭部画像所見:生後4ヶ月 頭部MRI「T1強調像にて左右対称性に両側視床
腹外側核を中心に高信号域を認める。左右基底
核後部にもわずかに高信号域を認める。左右内
包後脚から中心溝にいたる皮質脊髄路に沿っ
た髄鞘化を示す高信号は認められない。T2強調
像では、左右内包後脚は髄鞘化を示す低信号を
認める。T2強調像ではさらに両側基底核後部か
ら島回白質後部に淡い高信号域を認める。
profound asphyxia が疑われる」

6) 診療体制等に関する情報

- (1) 診療区分:病院
- (2) 関わった医療スタッフの数
医師:産科医1名
看護スタッフ:助産師2名

2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、分娩周辺期以前の胎児期に生じた中枢神経障害であると考える。
- (2) 中枢神経障害の原因は、遺伝子異常、代謝異常などの先天性因子によると考えられるが、臍帯血流障害による虚血などの脳循環障害も完全には否定できない。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 入院直後に、分娩監視装置を装着し胎児機能不全の有無を確認したことは一般的である。

(2) 妊娠 41 週 0 日から分娩誘発を行なったこと、オキシトシン使用中に分娩監視装置装着による連続的胎児心拍数モニタリングを行ったこと、オキシトシンの投与量や増量間隔は一般的である。

(3) 臍動脈血ガス分析を行ったことは一般的である。

3) 新生児経過

新生児の管理は一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

B 群溶血性連鎖球菌スクリーニング検査は妊娠 33 週から 37 週に実施することが望まれる。

【解説】「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014」では、妊娠 33 週から 37 週での実施を推奨している。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

(1) 実時刻と胎児心拍数陣痛図の印字時刻にずれがあった。分娩監視装置などの医療機器については、時刻合わせを定期的に行うことが望まれる。

(2) 胎児心拍数陣痛図を振り返り考察することが必要な場合もあり、胎児心拍数陣痛図が確実に保管されるような体制づくりが必要である。

(3) 本事例では児は異常なく出生し退院したため事例検討は行われていないが、その後脳性麻痺を発症していることから、当該報告書を基にあらためて事例の検討を行うことが望まれる。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

国・地方自治体に対して、妊娠中の B 群溶血性連鎖球菌スクリーニング検査は、か

ガイドラインで推奨する時期に公的補助下に一律に検査が実施できる制度の構築を働きかけることが望まれる。

【解説】「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014」では、膣分泌物培養検査（GBS スクリーニング）を妊娠 33 週から 37 週に実施することを推奨しているが、検査費用の公的補助制度によって同時期の実施が難しい地域の医療機関がある。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。